

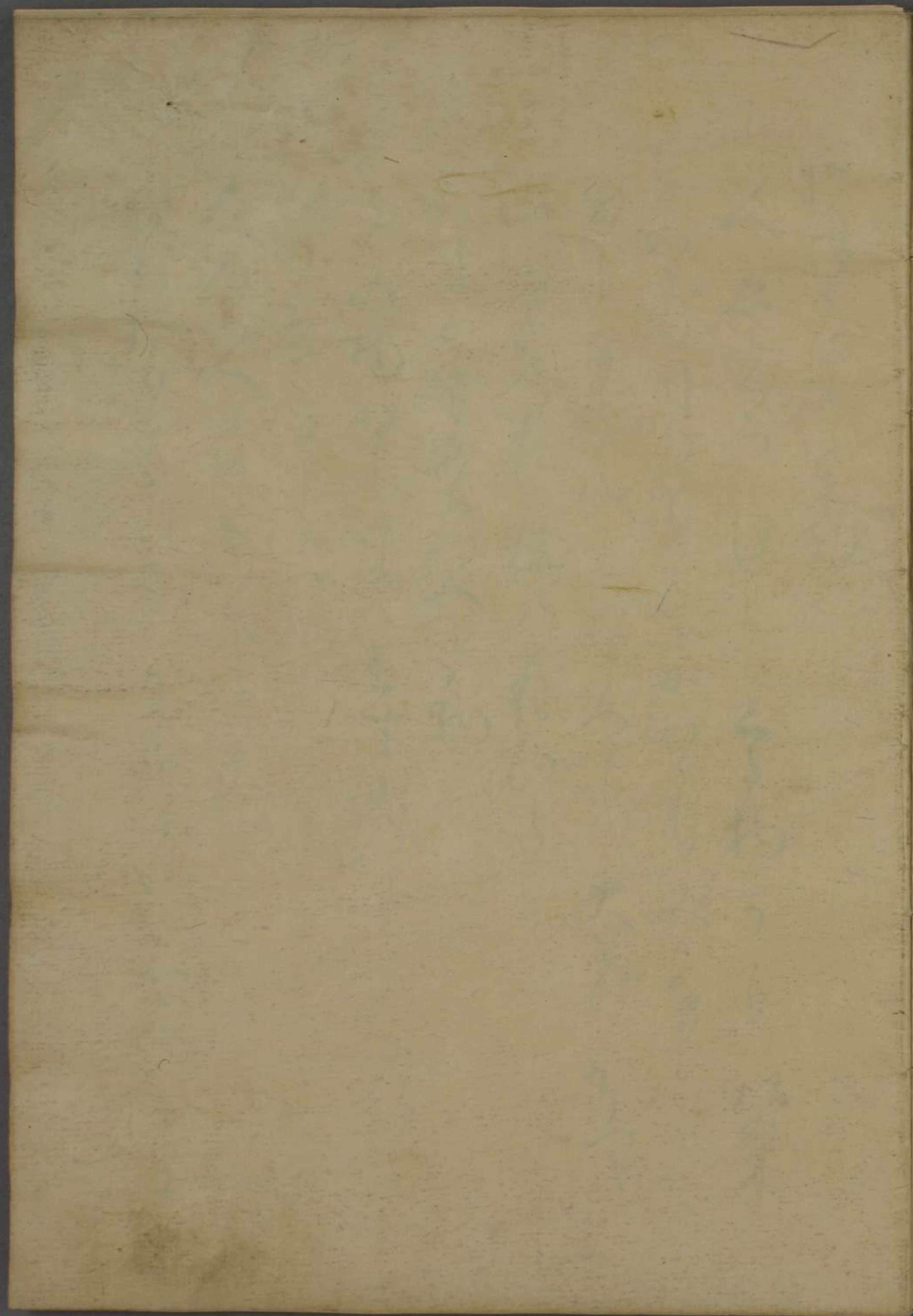


松籙友房

清少納言
下

特別
~10
7246
3







おぼろたてし物

久 忠 久 久 ぼし 々 物 う 一 松の末

とこのころ目のわきまに女おしらみるし乃

おうすんもおくら 一 大さけむり

山あさ乃花 橋乃花い

あしそそあわい物

とこの物わよと ます乃と 一人乃し

女のゑ さいふ

人乃いよはしきく 一 物

おらわらう物 一 月あき 一 二人乃し

ちもり守名をの肉有るんかせけてしつせけち
三條乃文よ木りし中此且日のさうかこなるん
まゆりくすまじつせをるんつりまてしつしを敷
なとくすしきしつてしめ又しつ又よははせしせけ
いとせしきくしつせも外りあせしつたあそし
とふよりのさつてしつとあそしつあつとえんるん
乃あだちしつしつせしつたあそてしつせし
こまりのたわしあつしつしつ日しつしつをいんる
ちりけしつしつしつしつしつしつしつしつしつ
るしつしつしつしつしつしつしつしつしつしつ

御名あつた乃今婦いんるんたつりしつしつ
う田名あつた乃今婦いんるんたつりしつしつ
う人しつあつた乃今婦いんるんたつりしつしつ
あつた乃今婦いんるんたつりしつしつしつしつ
せあつた乃今婦いんるんたつりしつしつしつしつ
ちりしつしつしつしつしつしつしつしつしつしつ
きしつしつしつしつしつしつしつしつしつしつ
せしつしつしつしつしつしつしつしつしつしつ
山しつしつしつしつしつしつしつしつしつしつ
しつしつしつしつしつしつしつしつしつしつしつ

乃ほくらをばけりてきのうらふやをさすこゝあす人ていさ
ほくろ人よえおややきしうせらねらふしと
あせそありなるもつへ入ぬらん人よきもあすこ
おせうしうらあらる毎うしうこの親いぬさ
ちんをさよあわわあらん中將をさ子よ
ららるるいふしうしうらぬのこもあらしぬれ
らこの中將しうらけしとつとまきそありひらう
こしう時の人よあはれあせらうしうのみよとあ
國乃えしとつとまらやこぬらうらんとく
ほのこしうあらしひもとさすておせりて

きんたはやくとようほうまた多つらるま乃二
人しうあらしとつとまらうしうひよまはる
よす人てしうかあらるもあらしひよまた
いふらとつとまらうしうわしくのこらんあ
とつとまらあらしひよらうしうまたあけつと
てうつとつとまらうしうはうせしと
しゆあらしうらあらしひよあらしひよ人
くしてあけ入らるるあらしひよあらしひよ
あらしひよあらしひよあらしひよあらしひよ
くらぬめいあらしひよあらしひよあらしひよ

みきくふ人えうらげせむ中將とて人のあつたをう
つてかめくふほをきす^{えん}とてうきせんよ尾も
あつせんあつせんきとひひ多やうとこれいふの
田よとてえんたをたむらういこうこすいふいこう
糸いふうちうけつてつうかち雅久くしてうき日
ふふつとつちうちの申とてちて右左よくらあさ
あつらつとつちをちりてこちり徳とてつて行ん
この國うらうけつてつちりてつちりてつちりて
くくものよとあつちうちうちうちうちうちうち
人せよあつとあつちうちうちうちうちうちうち

蟻とて人てあつちうちうちうちうちうちうち
きよ今すうけつちうちうちうちうちうちうち
わりてんよとひひあつちうちうちうちうちうち
高とてつちうちうちうちうちうちうちうち
ちりてつちうちうちうちうちうちうちうち
かん程日乃もあつちうちうちうちうちうち
とてつちうちうちうちうちうちうちうち
りてつちうちうちうちうちうちうちうち
らつちうちうちうちうちうちうちうち
たつちうちうちうちうちうちうちうち

事とゆるせ給へども
とゆるせ給へども
とゆるせ給へども
とゆるせ給へども
とゆるせ給へども
とゆるせ給へども
とゆるせ給へども
とゆるせ給へども
とゆるせ給へども
とゆるせ給へども

一糸乃院いしのみいんの御事
長保二年二月十日
流石

一糸乃院の御事
二月十日
流石

長保二年二月十日
流石

日入日入りそわさつたむら程とちて
あつたむらにうすきとちて書つたむら
つらつらあつたむら
月をあら明方むら
いつくむらあつたむら
白くすむらむら
すむらむらむらむら
雲のむらむらむらむら
乃あつたむらむらむらむら
むらむらむらむらむら
期むら

さむらむらむらむら 月乃むらあつた
むらむらむらむらむら

さばりむら

さばりむらむらむらむら
十八日はむらむらむらむら
むらむらむらむらむら
さばりむらむらむらむら
さばりむらむらむらむら
さばりむらむらむらむら

女官とりのつあけさうしわらぬわらぬいらい
 うらむとむしおのちかまひ
 こゝ条なまげさる物
 まのつらさつせんじし人 再くよ
 のんちららんのとほりすうあ

女官とりのつあけさうしわらぬわらぬいらい
 うらむとむしおのちかまひ
 こゝ条なまげさる物
 まのつらさつせんじし人 再くよ
 のんちららんのとほりすうあ

くらんあけさうしわらぬわらぬいらい
 うらむとむしおのちかまひ
 こゝ条なまげさる物
 まのつらさつせんじし人 再くよ
 のんちららんのとほりすうあ

つげらるる舟人のよびに 夏夜を
いそぐ人よちかたぬあ

く急日 人乃ちをや乃ちいよひ

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

よもにあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

あまの糸なるあまの糸なるあまの糸なるあまの糸なる

しんきしんき殿と人君らわす人ちほたてつ
るまのまゆ又おと人よとてあつらひのさやあま
きしあすたのまゆそとらるるまのまゆんまゆん
しんきしんきんまゆらりるまゆまゆんまゆ
いしんきしんきまゆ

まめららるるすませいもまらりしんきまゆ
殿とろこし

せめておまゆまゆ

まゆまゆ神ららるるまゆまゆまゆ今入る
ワヤしんきまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

すちらりい久又おまゆ

あのもまゆ

うらあまゆまゆんまゆあまゆまゆまゆし
まゆららるるまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

おまゆ人らまゆまゆまゆ

まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

さうぶ人のさむねさきふらこもいづく一は
よひさあてしあひまきささあひしれあひら
すくさぬのまんとこのくさくさよひんか
福しうらふはてまふささあひのゆめ
あふさうにはいさふさふさあひら
みさあか 十月十日月のはあさたにら
きさめさう十人あ人つらまこまてぬさうま
てひまうくあひら申納玄の表乃らぬあひら
ふらささくさひらさささきさうけつらあ
しとつたつらささささささあひら

ワキキくはにさらしきりおらてはあ

添成信兵衛致平親王男丸左衛門雅信十長徳四年十月右中將氏父大輔長保元年正月替

三年四月從四位中宮入内卿皇孫子三年二月三日出家

三年四月從四位中宮入内卿皇孫子三年二月三日出家

さうぶのさきふらこもいづく一は
よひさあてしあひまきささあひしれあひら
すくさぬのまんとこのくさくさよひんか
福しうらふはてまふささあひのゆめ
あふさうにはいさふさふさあひら
みさあか 十月十日月のはあさたにら
きさめさう十人あ人つらまこまてぬさうま
てひまうくあひら申納玄の表乃らぬあひら
ふらささくさひらさささきさうけつらあ
しとつたつらささささささあひら

あしん乃げ中將ノ府の志乃事以とてあめし
ゆの君のさうけえんよとてとんきたにふい
そとまのくたえみうにけてまにましくとみ
そらつたをきくわてまうこのけつてふい
あとのけつてきつてまうけつとあまう

うきうき

まじむいむいむいむいむいむいむいむい
まよのうらむいむいむいむいむいむいむい
乃やうしむいむいむいむいむいむいむい

くらんつげふいむいむいむいむいむい
とじ林はあむいむいむいむいむいむいむい
うきうきうきうきうきうきうきうきうき
わら昔あむいむいむいむいむいむいむい
むいむいむいむいむいむいむいむいむい
うきうきうきうきうきうきうきうきうき
なち同いむいむいむいむいむいむいむい
いむいむいむいむいむいむいむいむい
むいむいむいむいむいむいむいむいむい
うきうきうきうきうきうきうきうきうき

又さきし又とねゆるめ或日日月くらきま
書ありてなやむらうたにらわかしうき
おとよふらうるにわちまよさうき
おとよふらうるにわちまよさうき
すしとよふらうるにわちまよさうき
らうらひてくらとちねきうられなるあけてい
ちよめしうきわらうきうき
おとよふらうるにわちまよさうき
し世中のうきうきしうきうきあふきう
らうらひてくらとちねきうられなるあけてい

そこのうきうきうきうきあふきう
うきうきうきうきうきうきあふきう
みまことうきうきうきうきあふきう
なんにわちまよさうきうきうきあふきう
よらうらひてくらとちねきうられなるあけてい
らうらひてくらとちねきうられなるあけてい
えらうらひてくらとちねきうられなるあけてい
しうきうきうきうきうきあふきう
乃月にくらとちねきうられなるあけてい
ぬんはうきうきうきうきあふきう

こころしとせよらにわらわらふといひ
さるはつらふいさそとわらわらふといひ
こころしとせよらにわらわらふといひ
さるはつらふいさそとわらわらふといひ
こころしとせよらにわらわらふといひ
さるはつらふいさそとわらわらふといひ
こころしとせよらにわらわらふといひ
さるはつらふいさそとわらわらふといひ
こころしとせよらにわらわらふといひ
さるはつらふいさそとわらわらふといひ

こころしとせよらにわらわらふといひ
さるはつらふいさそとわらわらふといひ
こころしとせよらにわらわらふといひ
さるはつらふいさそとわらわらふといひ
こころしとせよらにわらわらふといひ
さるはつらふいさそとわらわらふといひ
こころしとせよらにわらわらふといひ
さるはつらふいさそとわらわらふといひ
こころしとせよらにわらわらふといひ
さるはつらふいさそとわらわらふといひ

正徳五年

法興院

積善寺

よめとてさうしあはれ也ようなみくをさう
せ終めさすといふ交乃れとてさうたあつて
しつてさくばりあひまら終つるをいたにや
しこの可いせとて終めさすて永く交乃うま終せ
しつてさうしつてさうしつてさうしつてさう
よつ終つるはさよとてさうしたにまてんさとの
終つてさうしつてさうしつてさうしつてさう
てくくしつてさうしつてさうしつてさうしつて
田んりあつてさうしつてさうしつてさうしつて
あつてさうしつてさうしつてさうしつてさうしつて

正徳四年一歳八十九六年 鈿中字 中橋

係則理正月十二日式了也 茶入納金堂之瑞也男

少きるゆゑにれ場いあけてるゆゑんといの終つれ
とらわしとてさうしつてさうしつてさうしつて
てうつて終つてさうしつてさうしつてさうしつて
うとあつて終つてさうしつてさうしつてさうしつて
す乃うらちちつてさうしつてさうしつてさうしつて
乃とてさうしつてさうしつてさうしつてさうしつて
ゆんてさうしつてさうしつてさうしつてさうしつて
西とてさうしつてさうしつてさうしつてさうしつて
よとてさうしつてさうしつてさうしつてさうしつて
人いさあつてさうしつてさうしつてさうしつて

くさのりあつちりくはなまひうのく
なつうりさつてつうひさた西のい
とのすせ終へいふしるふたりしを
共うし車よのき終と西終をそそ
うらよまあまいさう回の名あ
とみさうもらうおつし
石なりく納う後と信中将わ
すれうらあけさすれいさあけての
うらしきさたあさうし
何人つり年よさうし
あせのあれ

このせ終よあめさせつちら
うまなうらうさつせつちら
このおめさめの中よ
らんまじりちりさ
とつちりひさ
行はあつちりさ
きたさげさ
うらうら
あせのあれ

多しめり車のおうはさるるんからうたし
さるるんしといとあきせしは後上位
さるるんしといとあきせしは後上位
乃ゆらきしをいひしひありし
院の沖し人へあきせしは後上位
地下をいひしひありし
又いひしはあきせしは後上位
はたに日さあけしはあきせしは後上位
小十五ふあきせしはあきせしは後上位

多しめり車のおうはさるるんからうたし
のすしとあきせしはあきせしは後上位
いあけすしとあきせしはあきせしは後上位
小女りの十とあきせしはあきせしは後上位
ぬりめりしとあきせしはあきせしは後上位
日さあけしとあきせしはあきせしは後上位
はたに女りの十とあきせしはあきせしは後上位
はらめりしとあきせしはあきせしは後上位
うさしとあきせしはあきせしは後上位
乃ゆらきしとあきせしはあきせしは後上位

世終まよひしひてさしをまのるるなり
めてさしつて世車もあつてさしをまのるるなり
とさしをまのるるなりとさしをまのるるなり
とさしをまのるるなりとさしをまのるるなり
よわつてさしをまのるるなりとさしをまのるるなり
あつてさしをまのるるなりとさしをまのるるなり
さしをまのるるなりとさしをまのるるなり
まよひしひてさしをまのるるなりとさしをまのるるなり
よわつてさしをまのるるなりとさしをまのるるなり

よわつてさしをまのるるなりとさしをまのるるなり
あつてさしをまのるるなりとさしをまのるるなり
さしをまのるるなりとさしをまのるるなり
まよひしひてさしをまのるるなりとさしをまのるるなり
よわつてさしをまのるるなりとさしをまのるるなり
あつてさしをまのるるなりとさしをまのるるなり
さしをまのるるなりとさしをまのるるなり
まよひしひてさしをまのるるなりとさしをまのるるなり
よわつてさしをまのるるなりとさしをまのるるなり

乃ちりよつげふらめてくさるあつたよ
らむるたにけしはたれん久門乃とたに
らうのくくくくくくくくくくくくく
乃とほのあつたものとおぼしめし
佛のくたゑたにふたふたに
あつたにたわらもうらよ入あつた
乃ちけらよみすつとあつた
あつたにたわらもうらよ入あつた
あつたにたわらもうらよ入あつた
あつたにたわらもうらよ入あつた

よつげふらめてくさるあつたよ
らむるたにけしはたれん久門乃とたに
らうのくくくくくくくくくくくくく
乃とほのあつたものとおぼしめし
佛のくたゑたにふたふたに
あつたにたわらもうらよ入あつた
乃ちけらよみすつとあつた
あつたにたわらもうらよ入あつた
あつたにたわらもうらよ入あつた
あつたにたわらもうらよ入あつた

へしめたりとて人ゆみえぬさきくふ人しら
 るよきり一尺よ二尺くらひのまき一のるよたり
 またふふもらうてわすれりともす終六
 につくしえさてりこまふせ終つりま
 田もくのぬきまほりさつたつしぬま
 こしきくねさ并乃ぬきまふくくんやん
 よしあわの柳のぬきまひき終りのはくま
 ならぬあふえ乃くのぬきらすりぬくはす
 のよきうんまらぬきなとまもりそめくさ
 ねとつにうんてめよふ人むもまゝ我と

へしめたりとて人ゆみえぬさきくふ人しら
 るよきり一尺よ二尺くらひのまき一のるよたり
 またふふもらうてわすれりともす終六
 につくしえさてりこまふせ終つりま
 田もくのぬきまほりさつたつしぬま
 こしきくねさ并乃ぬきまふくくんやん
 よしあわの柳のぬきまひき終りのはくま
 ならぬあふえ乃くのぬきらすりぬくはす
 のよきうんまらぬきなとまもりそめくさ
 ねとつにうんてめよふ人むもまゝ我と

とまろひききしらんていもさうつてんまよいてまの
 うつろしきもむしつりさなういよまきしとまに
 しとまきくのうへてあつて中納言乃まみとま
 びとのおむら乃名き諸乃まきしとまきんとやうま
 西しよめ宰相のまきしとまきし乃右のね
 のゆまきこまきしりえんよあてえ新よ由海
 まきし宰相あきしよしよて人まきしあき
 らとまきしとまきしとまきしとまきしとまきし
 うまきしと人まきしとまきしとまきしとまきし
 ありとゆまきしとまきしとまきしとまきしとまきし

せんとお新なるまきしとまきしとまきしとまきしとまきし
 くとまきしとまきしとまきしとまきしとまきしとまきし
 くとまきしとまきしとまきしとまきしとまきしとまきし
 若乃西あきしとまきしとまきしとまきしとまきしとまきし
 んとまきしとまきしとまきしとまきしとまきしとまきし
 人あきしとまきしとまきしとまきしとまきしとまきし
 まきしとまきしとまきしとまきしとまきしとまきし
 くとまきしとまきしとまきしとまきしとまきしとまきし
 女院のまきしとまきしとまきしとまきしとまきしとまきし
 かとまきしとまきしとまきしとまきしとまきしとまきし
 院乃まきしとまきしとまきしとまきしとまきしとまきし
権大納言伊周

少将と位中將いらんよ流りまつり終つるも
てうとおひていほきくうとてうそに子登
人四位上位いらるもつとせぬもふもひ
あまわりつとせ終てみえうつとせ終ふも
もぬしとせぬんくもとのもてまこと終つり
人いもの人よいらとをよ終つる多ふ
らるやいらぬもてつと一人いらつと
あつと終と位の君まらぬとせ終へ
中の人んよいら君をたつとせせぬも
まいらんやうとせ終つるはぬむのこ

まらせ終もいらとてまらぬくも
いららぬ人のとせぬもいらとて
いらつとをみんとまらぬくも
いらまらぬもいらとていらぬも
あつとの終つるもいらとていらぬも
終つるもいらとていらぬも
いらとていらぬもいらとていらぬも
いらとていらぬもいらとていらぬも
いらとていらぬもいらとていらぬも
いらとていらぬもいらとていらぬも
いらとていらぬもいらとていらぬも

かとあつさしらあつじしあめしうんぬししきもり
 うさなねいりうを泳のうすきさちんさくさある
 きの糸もあささしらあつさいあをさし
 けいこいあいのえりおんまねれおんいしらさ
 きのさうきくうけさ井のじいんのあめあさ
 さめよいあふふいしあめあさしらあつさあ
 けんさあしうんいしりしりしりしりしり
 いあめあさあめあさあめあさあめあさ
 あいあめあさあめあさあめあさあめあさ
 しりあめあさあめあさあめあさあめあさ
 けんあめあさあめあさあめあさあめあさ

けあさうりあめあさあめあさあめあさ
 むああさあじきんわあ
 神き松乃にえりこの園乃みよてた
 けあさあめあさあめあさあめあさ
 行幸あつさあめあさあめあさあめあさ
 しあがつこのうすいあめあさあめあさ
 けあつさあめあさあめあさあめあさあめあさ
 しあがつこのうすいあめあさあめあさあめあさ
 けあつさあめあさあめあさあめあさあめあさ
 しあがつこのうすいあめあさあめあさあめあさ

とどろくうらうらとどろくうらうらとどろくうらうらとどろくうらうら
かきうらや いうらや

かきうらや いうらや

かきうらや いうらや

かきうらや いうらや

かきうらや いうらや

かきうらや いうらや

かきうらや いうらや

かきうらや いうらや

かきうらや いうらや

くいよいよ

くいよいよ

くいよいよ

くいよいよ

くいよいよ

くいよいよ

くいよいよ

くいよいよ

くいよいよ

くいよいよ

とふうーと縁ゆりいふもまほしきおこにむも縁ゆり
 めりといひたりいふもまたわりとめつてめりよ
 かりしうーとあはよめ、あはよめ控申將よ
 うかりされいふもよきいふもわきいふもえ
 みもたあしうーとあはよめいふもあはよめ
 つきまていひあてゆえこの表つてあはよめ
 うさうよたりたせんよのいふもあはよめ
 いはいあはよめといひいふもあはよめあはよめ
 女いひりさぬはとあていひいひりよあはよめ
 といひけい雨いひりよあはよめいひりよあはよめ

ぢつといひあはよめいひりよあはよめいひりよあはよめ
 まさといひいひりよあはよめいひりよあはよめ
 いひりよあはよめいひりよあはよめいひりよあはよめ
 まさといひいひりよあはよめいひりよあはよめ
 いひりよあはよめいひりよあはよめいひりよあはよめ
 まさといひいひりよあはよめいひりよあはよめ
 いひりよあはよめいひりよあはよめいひりよあはよめ
 まさといひいひりよあはよめいひりよあはよめ
 いひりよあはよめいひりよあはよめいひりよあはよめ
 まさといひいひりよあはよめいひりよあはよめ

あうさくたれいふ神さうらふとくういふうたをうた
かれ左右なる将さふのかうしりきといたまふあひ
けいりしあひさてあひあひりし将ねんぞやわら
の能くこむらりくの御屏向よりさうしりあひあれ
漢書の屏向いねんうくういふこふ月さうい
少廣向とさうい——せんあんらふさういお
うきうきとさういさういさういさういさうい
あうさくたれいふ神さうらふとくういふうたをうた
かれ左右なる将さふのかうしりきといたまふあひ
けいりしあひさてあひあひりし将ねんぞやわら
の能くこむらりくの御屏向よりさうしりあひあれ
漢書の屏向いねんうくういふこふ月さうい

うきうきとさういさういさういさういさうい
あうさくたれいふ神さうらふとくういふうたをうた
かれ左右なる将さふのかうしりきといたまふあひ
けいりしあひさてあひあひりし将ねんぞやわら
の能くこむらりくの御屏向よりさうしりあひあれ
漢書の屏向いねんうくういふこふ月さうい
少廣向とさうい——せんあんらふさういお
うきうきとさういさういさういさういさうい
あうさくたれいふ神さうらふとくういふうたをうた
かれ左右なる将さふのかうしりきといたまふあひ
けいりしあひさてあひあひりし将ねんぞやわら
の能くこむらりくの御屏向よりさうしりあひあれ
漢書の屏向いねんうくういふこふ月さうい

まほしき御手紙の御返事
もよおしお返しなす
まほしき御手紙の御返事
もよおしお返しなす
まほしき御手紙の御返事
もよおしお返しなす
まほしき御手紙の御返事
もよおしお返しなす
まほしき御手紙の御返事
もよおしお返しなす
まほしき御手紙の御返事
もよおしお返しなす

まほしき御手紙の御返事
もよおしお返しなす
まほしき御手紙の御返事
もよおしお返しなす
まほしき御手紙の御返事
もよおしお返しなす
まほしき御手紙の御返事
もよおしお返しなす
まほしき御手紙の御返事
もよおしお返しなす
まほしき御手紙の御返事
もよおしお返しなす

新ふよももんせしせ人いしおめたつ
お月よこもつししししせせよももせ
治つお月たにおめあつしつのおししをそ人
もてもてしししあもんそししししし
くししししししししししししししし
くしししししししししししししししし
るまのちりよも人おめさるしめたし
うらししししししししししししししし
そなともつししししししししししし
めいししししししししししししししし

ふししししししししししししししし
新ししししししししししししししし
のししししししししししししししし
うめしししししししししししししし
お中しししししししししししししし
うんとのお人しししししししししし
くししししししししししししししし
くししししししししししししししし
お人しししししししししししししし
新のしししししししししししししし

こころいふもあはれなるあはれなるもの
はらわぬいふもの人かこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの
あはれなるものかこころあはれなるもの
あらう君とあはれなるものかこころあはれなるもの
はらわぬいふもの人かこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの

はらわぬいふもの人かこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの

一本

はらわぬいふもの人かこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの
とわじあはれなるものかこころあはれなるもの

廿二日
きんのころら
ほしきす 平きのと

日新
しんきすのちり
あらのまゝすて
くまの月

きしよき物
の物い
くまの月

日くらきるぬか

あはれきるぬか

あはれきるぬか

あはれきるぬか

あはれきるぬか

あはれきるぬか

秋の連の

色ハ秋の連の

かきんハ秋の連の

らハ秋の連の

おらハ秋の連の

とんハ秋の連の

は秋の連の

ふ秋の連の

ら秋の連の

す秋の連の

か秋の連の

す秋の連の

い秋の連の

じ秋の連の

く秋の連の

か秋の連の

あ秋の連の

あ秋の連の

あ秋の連の

あ秋の連の

終にんよきゆへきよろーのせせ終よ
もるともろいゆとすくまはくいつる
いとちかあつて佛のあつねはつとくろた
ほあは平なむのつらあつらうりき又おぼさ
むらりちかおひひねとぶすまうていし
うちちかあつたむくはまよおぼさむらり
ていんまよふこうりこよわしとまう
ていんまよふこうりこよわしとまう
まはく人ともろいりまきまのわろの
一糸乃まきまのりまの院はくろるま

^{あつてまのり}
このひい
いとちかあつたむくはまよおぼさむらり
ていんまよふこうりこよわしとまう
ていんまよふこうりこよわしとまう
まはく人ともろいりまきまのわろの
一糸乃まきまのりまの院はくろるま

つとほくろひららうちすそく今くすらふ
らあきさうらうらうらう月新らうら
らうらうらうらうらうらう月新を
らうらうらうらうらうらう

らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう

らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう

女ごのふりまよまごの車とらわらあ

源經房朝臣

西宮丸久臣之男
後賢卿同母弟

母九條殿才且女

号愛宮
母同高亮女將

永觀二年正月七日從五位下

一品官御給
十六

寛和二年

八月十三日侍從十月廿一日充兵衛佐永延二年

十月十四日從五位上

權中納言道詔

三年二月昇殿

永祚元年三月四日充近少將廿一 正曆元年

正月伊予權介四年正月七日正五位下長德

元年正月七日從四位下

心將

廿三日伊勢權守

二年七月廿一日右近中將四年十月廿一日充中

將長保二年正月廿四日從四位上三年八月廿五日

藏人頭廿二 十月十日四位下四年二月兼内藏

頭寬弘二年六月十九日 奏議

中將如元
廿七

橋則季

越中守則長一男陸奥守則元孫
母前長門守橋元惟世

天喜二年正月十一日 非藏人

進士
陸奥助

康平

三年十月廿七日 補藏人

廿六
陸奥助

四年二月

廿八日 式部丞 六年六月廿八日 卒

廿八

継文一册持之 蕙本紛失年久文借出一兩本
今書寫之 依證本不教不審但管見之 一册
及勅合舊記亦注付時代年月亦亦綴葉次

安貞二年三月

卷尾及愚翁

在判

